

## 音楽表現Ⅱ

単位数	2単位	対象学年	3学年	対象コース・クラス	チャレンジ
使用教科書		副教材等	学校作成プリント		

### 1. 学習の到達目標

- ・音楽的感性を育てるために必要な音楽技能、音楽理論の知識を身につける。
- ・ピアノ奏法・ギター奏法と楽典やソルフェージュなど基礎的な学習を身につけ、ピアノなどの演奏技術の向上を図る。
- ・童謡の演奏や（コード付け）伴奏をできるようにする。
- ・楽曲分析を通して、その効果的な演奏法や指導法を考察し、小学校教諭・幼稚園教諭としての実践的指導力を身につける。

### 2. 到達目標に向けての具体的な取り組み

- ①身体で音楽を感じ、音楽表現に必要なスキルを学ばせる。
- ②音楽が有する良さを感じ、個性豊かに表現する能力を育てる。
- ③教育現場に必要な歌遊びや創作表現など、自主性を生かし、創意工夫できるようにする。

### 3. 学習上のメッセージ

中学校や高校音楽Ⅰ、音楽表現Ⅰで学習した音楽の授業の経験を土台にして、生涯にわたって音楽を愛し、音楽と共に心豊かな人生を過ごす為の基礎作りに取り組みます。ピアノ実技や歌唱、創作など多岐にわたり、授業を行います。選択者の中には、音楽に対し、苦手意識を持っている人もいられるかもしれませんが、音楽を通して、感性を豊かにし、音楽をする喜びや感動を味わい、積極的に授業に参加しましょう。

### 4. 評価の観点・方法（年間の評定）

評価は次の3つの観点から行う。

知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

評価は、具体的には次のものを対象とする。

- ①授業中に行う実技試験
- ②授業中の発問に対して回答を記入し、提出されたプリント等
- ③広島桜が丘高等学校生徒としての規則に則した服装での学習活動への参加状況かつ、実技中心の教科なので、実技への意欲、授業の参加状況も対象とする。

一年間の評定は、年間を通じて、総合的に判断し、決定する。

5. 学習内容と評価について

単元名	使用教科書項目等	指導内容と評価のポイント
音楽理論	音程 反復記号	・音楽表現に必要な知識を身につける。
歌唱	コールユーブンゲン	・リズムの変化など、曲調を生かした表現を工夫しようとしているか。 ・リズム、速度、旋律のフレーズを理解し、表現しようとしているか。
1学期中間実技試験		
音楽理論	楽譜の書き方 調判定	・音楽表現に必要な知識を身につける。
歌唱	新曲視唱	・楽譜を見て調の判定をさせる。
1学期期末実技試験		
音楽理論	コード弾き	・音楽表現に必要な知識を身につける。
童謡の演奏 (コード付け)		・基本的なコードを覚え、曲調に合わせ、指定されたコードを弾くことができるか。
2学期中間実技試験		
音楽理論	アナリゼ	・音楽表現に必要な知識を身につける。
クラシック演奏		・西洋の音楽に興味を持ち、内容や時代背景を理解し、進んで鑑賞しているか。 ・リズムなどの要素から、その曲の特徴を理解し表現しているか。
2学期期末実技試験		
卒業演奏		・自分の感性を生かしながら、幅広い表現方法で演奏できているか。
学年末実技試験		